

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会

圏域別意見交換会（境）

■日時 令和5年2月26日（日） 午前10時～午後0時24分

■場所 スイングホール

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
中村委員、箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：なし

事務局が、意見交換会の趣旨、意見交換会の進行、意見の取り扱い、今後のスケジュールについて説明した。策定委員会委員が自己紹介した後、意見交換を行った。

【市民A】 緑を基軸としたまちづくりは、どの自治体も同じような内容だ。課題はその自治体らしさ、具体的な施策だ。本市は武蔵野という名前を冠している。それにふさわしい緑地をつくり、育てていけばいい。現代の緑と環境は、緑の姿、形ではなくて、緑豊かな生態系をいう。生物多様性を一体とした扱われ方がいいのではないか。国木田独歩は『武蔵野』の中で「林はじつに今の武蔵野の特色といってもよい」と書いている。現代においても雑木林は武蔵野らしさを持つ特色のある緑だ。定期的に更新することで生物多様性を育むこともわかっている。歴史文化の継承を含めた雑木林の更新管理が本市にふさわしい緑の施策だ。

討議要綱 33 ページ、緑・環境分野の枠内の3に『武蔵野市民緑の憲章』とある。その次に「及び武蔵野市生物多様性基本方針」をつけ加えていただきたい。

基本施策3の2)の第2段落(35 ページ)に「都市に残る貴重な農地の保全に努める」とある。この「農地」の次に「と雑木林と屋敷林」をつけ加えていただくとよいと思う。

基本施策3の3)の第2段落の下から2行目「巨木化した樹木への対応等、既存資源」の「巨木化した樹木への対応」の次に「歴史をつなぐ雑木林の計画的更新」をつけ加えていただくといいのではないか。

長計にはこういう言葉が入っている。調整計画にも明記していただけるとよいと思う。

【委員長】 33 ページの枠組みのところは、他の分野も同様だが、第六期長期計画からの施策の大綱として議会で議決されている事項で、文言を変えることができない。調整計

画では議決の予定はない。ただ、生物多様性基本方針について書き加えていただきたいという意図は反映する。

【副委員長】 武蔵野市は市民が緑を誇らしく思い、かつ盤石な財政でそれを支えようしている。

枠内は長期計画の転載で、調整計画で書きかえるわけにはいかないが、長期計画策定の際に皆様から意見をいただいて、緑と水のネットワークをはじめ生物多様性、雑木林の重要性を書き込んだ。調整計画でも強調する。ただ、討議要綱はあくまで調整計画の抜粋で、長期計画に書かれていることは、場合によっては省いている。特に緑・環境分野は、第六期長期計画で書かれていることを継続する。雑木林がどんどん減っているという厳しい現実もある。保全について、市職員の方々と調整し、しっかり書き込む。

また、相続によって土地が分割されたり、マンションが建ったりして、緑被率は下がる傾向にある。緑を保全するための施策はしっかり行っていかなければいけない。別冊資料に、重要度・満足度の市民アンケート結果が出ている。緑・環境分野は、他分野から突出して市民の満足度が高い。ただ、高いから施策を緩めるとかいうのではない。さらに伸ばし、武蔵野市の誇りとなるものにする。

【委員長】 緑・環境分野の市民アンケートの結果は、「第六期長期計画実行計画の取組状況と中間評価」の43ページに記載されている。

【市民B】 私は「プライド」という言葉が少し苦手で、「シビックプライド」という言葉自体をあまりいいとは思わないが、内容は賛成だ。このまちに愛着と、住み続けたいという思いを持つ市民が増えることはいいことだし、まちに魅力を感じる人が増えることもすばらしいと思っている。

「愛着」という言葉を辞書で引いたところ、「愛情に引かれて思い切れない」というような意味が書かれていた。仏教でも「愛着」という言葉はネガティブな意味で使われている。しかし、ここでは、まちや人とのつながりを持って暮らしていきたいという気持ちを言う。愛着と誇りについて説明しておいたほうがいい。

私が武蔵野市に愛着とか誇りを感じるとしたら何だろうということも考えた。私はこのまちに引っ越してきたから、もともとつながりはないが、地域の活動や市民活動、市の計画づくりに関わることを通して人とのつながりができた。そして、その活動を通して何かが生み出されることに誇りや愛着を感じる。誇りを感じ、人とつながったから、このまち

で暮らし続けようと思うようになった。そのことと、場所や景観、緑がつながっていると感じる。

「シビックプライド」という言葉がこの中に2回使われている。景観のところと、ふるさと歴史館のところだが、どちらも部分的だ。今、私がお伝えしたような意味でシビックプライドというものを捉えるなら、それは市民自治の中心的なテーマにつながることだ。計画の柱に、シビックプライドとは愛着と誇りであって、その内容はこういうことであって、市民が自らの力でこのまちをつくっていくことから、誇りや愛着は生まれてくると書いていただくのがよいのではないか。

【A委員】 シビックプライドは、討議要綱上は先ほどの2カ所だが、第六期長期計画の冊子の109ページ、基本施策2の「効果的な広報・広報の仕組みづくりとシティプロモーション」の(3)に「武蔵野市らしさの追求とシティプロモーションの推進」とある。今回は特段大きな議論を呼び起こすと思っていなかったもので、討議要綱には書いていないが、施策上は継続する。

愛着と誇りの定義づけは人それぞれで、解釈の幅があっているのではないかと。人とのつながりという観点の愛着と誇りは私も認識しているが、中には人とのつながりが苦手だという人もいらっしゃるはずだ。自分が過ごした思い出から、このまちが好きだという方もおられる。ネガティブなメッセージよりポジティブなメッセージだと思うが、その定義づけ、枠組みをあまりしないほうが良いと個人的には思っている。策定委員会で議論する。

【市民C】 この間の大きな関心として、カルト宗教の存在がある。大学などでは対策がとられているようだ。その対策を小学校、中学校にも取り入れていただきたい。

性教育が随分前から変わっている。性教育は、多様な性を認めるという意味でもあるし、相手を大切に、自分自身を大切にすることだ。大人も含めて今の新しい性教育を打ち出してほしい。

【B委員】 カルト宗教は以前から問題になっているが、最近、頻繁に議論されるようになった。ただ、この議論は長期計画ではなされていない。過去をさかのぼってもあまりなされていないと思う。どのように反映できるか、策定委員会の中でどの程度深められるかは未知だが、ご意見として承る。

性教育についても、おっしゃるとおりである。私は、障害、特に知的障害がある方たちの支援を専門にしているが、あまり触れられずに来たところがある。最近になって、包括

的性教育ということで議論が再開された。あわせて近年のSNSでの未成年による援助交際の、いわゆるパパ活といった問題もある。委員会で検討する。

【委員長】 性教育については、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの観点から、市民生活に限らず、産み育てるということに関わって、子ども・教育分野としても議論している。それを性教育という形にすべきかどうかも含めて議論する。

【市民D】 まず、緑・環境分野について。現在の長計は、自然と歴史をかなり重視した内容で書き込んでいただいた。ただ、この2～3年、雑木林がナラ枯れで相当弱っている。そこで、基本施策3の3)「緑と水のネットワークの推進と森林整備」の第2段落と第3段落の間に「公園緑地等の緑に関し、生物多様性基本方針に基づいて生物多様性の観点から保全するとともに、江戸時代等の昔から動植物の命をつないできた遺伝子の保護に力を入れる。特に、わずかに残された雑木林については、生物多様性及び歴史文化の継承の観点から、持続可能な維持管理手法を定着させる」と入れてはどうか。

平和・文化・市民生活分野について。現行の市民活動促進基本計画7ページ及び武蔵野市生涯学習計画36ページでは、いずれも武蔵野プレイス、武蔵野市民会館、コミセンを拠点として、生涯学習で学んだことを市民活動で生かすという趣旨が明記され、生涯学習政策と市民活動政策の相乗効果の促進がうたわれている。討議要綱27ページの、長期計画の施策の大綱の6には「参加と学びの循環」と書かれているが、具体的な施策では両者が分断されている。生涯学習と市民活動をつなぐような施策を書き込んでいただきたい。

また、社会教育の拠点としての武蔵野市民会館の機能強化を図ってほしい。現状、市民会館は、施設は充実しているが、それを使って市民の学習生活を促進するための人材が不足している。貸し館的な、もったいない使われ方になっている。そこで、社会教育主事の資格を有する職員を採用してほしい。

行財政分野の基本施策1の3)の記述に、「職員と市民の学び合い」という言葉を入れていただきたい。

【副委員長】 武蔵野市に昔からある例えば雑木林のクヌギとかケヤキを固有種として保全する、ひいては遺伝子の保護という広い概念をおっしゃったが、大昔からの武蔵野の動植物の遺伝子を引き継ぐもの全てを保全していこうということか。

【市民D】 生物多様性の考え方の中に遺伝子の多様性がある。この多様性は、それぞれの地域に根づいている遺伝子を大事にするという意味だ。江戸時代から続く雑木林のクヌ

ギヤコナラということだけでなく、江戸時代からこの地域にあるクヌギ、コナラの遺伝子、あるいはケヤキの遺伝子を継承する。さらには、その大昔、草原だったころの野草も、玉川上水周辺の一部に残っている。江戸時代より前からある野草を大事にしたい。

【副委員長】 独歩の森あたりでドングリを植えるというのも非常にいい活動だと思った。あのドングリも、遺伝子を保全し、引き継いでいくための活動か。

【市民D】 そのとおりだ。よそから持ってきたドングリではなく、遺伝子を大事にしているという趣旨で、独歩の森で落ちたドングリをまいている。

【副委員長】 長期計画はグランドビジョンであり、どこまで書き込めるかわからないが、そのような趣旨が反映されるべく頑張りたい。

【B委員】 生涯学習で学んだことが市民活動できちんと生かされ、反映されるような、循環をつくるというイメージについては、おっしゃるとおりである。生涯学習での学びを市民活動で具現化できるような施策を検討するという書き方になると思う。

【市民D】 「施策を実践する」など、具体的な動きを書いていただけるとありがたい。

【委員長】 市民会館は、市民活動の拠点として活用していきたいが、今は貸し館機能が中心で、市民活動をつなぐ等の情報交換ができていない。武蔵野プレイスに拠点があるため、連携が難しい。市民会館の人員配置、情報連携、機能強化について、アイデア、ご意見をお寄せいただきたい。また、市民会館は、10年ほど前に、なくすかどうかの議論があったが、残して活用することとなった。市民活動と学習の拠点としてどういったことができるか、議論する。

【A委員】 私も「学び合い」という言葉はいいと思う。

調整計画で位置付けるとすると、行財政分野の基本施策1の2)の「市民参加の充実と情報共有の推進」か、基本施策1の3)「様々な主体との連携・協働の推進」、あるいは基本施策5の1)「課題に的確に対応できる人材の確保と育成の強化」で取り上げるのがよいのではないか。

【市民D】 行財政分野の基本施策1の3)の最後、「市民との信頼関係及び相互理解を深めることで」を「市民との信頼関係及び相互理解・学び合いを深めることで」と加えてはどうか。

【市民E】 不登校の子どもが多くなっている。多様な学び方として、子どもたちの居場所に専門の相談支援員が常にいるといいという市民の声がある。子ども・教育分野の基本

施策4の6)「不登校対策の推進と教育相談の充実」には「家庭と子どもの支援員」とあり、用語説明で「大学生のボランティア等が」と書かれている。専門性のある方、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーにしていきたい。

基本施策2の3)「小学生の放課後施策の充実」については、現状、人が足りていない。学童クラブの整備面、環境面も含めて人的に充実させてほしい。

高齢者施策で、フレイル予防が書かれているが、一生懸命努力しても足腰に支障が出る。老いは自然なことだ。予防というより、自然に受け入れる形の書き方もあるのではないかと。私たちはみんな老いていく。健康・福祉分野は、もう少し高齢者に特化した記述でもいいのではないかと。

【C委員】 基本施策4の6)の不登校対策として、専門性のある職員を入れてほしいということについては、おっしゃるとおりである。大学生は、まだ学び途中でボランティア的などころがあり、意識もかなり違う。どのように書き込めるか検討する。

小学生の放課後施策での人材の確保や定着を図ることについてはどう入れるか考える。

【D委員】 介護保険制度ができたのが2000年で、2016年改正で介護予防という概念が入ってきた。今は認知症も予防と共生という考え方に立っている。その根底に流れるのは、医療や介護を受ける状態にならないようにするということである。ただ、ご指摘のとおり、みんな老いていく。それを少し遅らせるとか、重くならないようにする取組みとして、最近ではフレイルという考え方が入ってきた。そういうこととのバランスをどうとるかである。

高齢者に特化してはどうかというご指摘だが、関係団体意見交換会では、書き方が高齢に偏っていて、障害者に関して薄いというご指摘をいただいた。健康・福祉分野は幅が広い。どこまで書き込めるか、検討する。

【委員長】 フレイルという概念は非常に多様である。例えば、97歳の方が、筋力が脆弱でフレイルの状態であったとしても、適切な介入があれば、社会生活を送ることができる。ただ、予防の話ばかりして、サービスの話がなくなっちゃいけないので、決して予防の話ばかりしているわけではないということをもう少し前面に出す。予防としてできる部分とできない部分があり、できる部分は多様であるということ、サービスをしっかりとするという前提を考える。

【市民F】 世の中は脱炭素で、IPCCも気温上昇を平均1.5度に抑えようという中で、現

在の気温上昇は平均 1.1 度だ。どうにかして我々は気温上昇を抑えていかなければいけない。武蔵野市と市民が連携する必要がある。

緑・環境の基本施策 4 に省エネ施策への取組みに対する記載があるが、もう少し具体的なほうがいい。脱炭素を意識している人たちはもちろん積極的に取り組むが、意識の薄い方々をどう巻き込んでいくかだ。ベンチマークと比較し、戸建て住宅を含む各建物でエネルギーを管理してインセンティブを与えるなど、意識向上につながる記載ができないか。一方、公共施設で創エネに取り組んでいけるのではないか。

緑を適正に保つことも脱炭素につながる。第六期長期計画の 91 ページ「緑と水のネットワークの推進」で、緑の適正化と脱炭素をリンクさせた記載をしたほうがいい。

【副委員長】 武蔵野市民みんなが電気自動車にしたら、武蔵野市は確かに脱カーボンになるが、それは境界条件が外に出るだけだ。トータルでは必ずしも環境にいいことではないかもしれない。持ち帰って検討する。教育啓蒙するという意味で、クリーンセンター跡地のエコ re ゴートを活用し、いろいろな活動をしていくことが大事ではないか。

省エネハウスをつくったらインセンティブを与えるというのは、自治体の施策であるべきなのか、国の施策かというところがあり、難しい。ただ、策定委員会でも、創エネは、例えば太陽光パネルを活用されていない土地や屋根に行っていくべきだという議論をした。武蔵野市の管轄ではないが、都の浄水場は中に水をためているだけで、その上部空間を使っていない。僕はそこに全部太陽光パネルを張り詰めるべきだと思っている。

カーボンニュートラル、環境に優しいということに議論の余地はない。ゼロカーボンの実質的なインパクトは小さくても、緑を保つことで、少しでも環境に貢献すると書き込む。

【E 委員】 エコ re ゴートの活用について。環境意識の教育とかエネルギーの使い方、ごみの捨て方等ライフスタイルを環境志向に合わせ、市民の教育水準を小さいところから上げることは大事である。

石炭火力の発電所を持つところが一日で燃やす石炭の量と、武蔵野市が 1 年に排出する CO₂ の量はほとんど同じである。ベッドタウンとも言える武蔵野市で CO₂ の量を削減するといっても絶対値はそれほど大きくない。ただ、将来を担う人たちが地球を守る方向に頭を使うことの意義は大きい。そんなことも武蔵野市のシビックプライドに含めて考える必要がある。

【市民 F】 武蔵野市だけで見たらもちろん小さいが、塵も積もればと思っている。小さなことから取り組んでいかなければいけないというのが私の意見だ。

【市民G】 武蔵野市は待機児童ゼロとか、学童を充実するとか、働いているご家庭のお子さんに対しての施策は充実している。反面、学童の部屋を増やすために、あそべえで遊んでいる子たちの部屋はどんどん小さくなっている。児童館に保育園を入れるときも、「あなたたちの遊ぶ場所は別のところね」ということを経験した。今や専業主婦はマイノリティーなのかもしれない。学童に通わせていないご家庭も武蔵野市にはたくさんある。そういう家庭に対しての政策やサービスも充実できる能力が武蔵野市にはあると思う。

市全体でオンラインとかDXの推進というが、武蔵野市は対面重視という言葉をしているところを聞く。対面重視だからICTを進めることができないということではないと思う。ICTのいいところ、対面のいいところを守って政策を進めてほしい。私の子どもは不登校だった。オンラインを利用できたら、もう少し違ったのではと思うこともある。ICTの可能性に注目して、今後につなげていただきたい。

【C委員】 家庭で子育てをする世帯に対して、子ども・教育分野の基本施策2の1)の2段落目で「保育施設等を利用していない世帯の支援を充実させるとともに」、「多様化する保護者の働き方や、家族のあり方」と書いた。どういう家庭をつかっていきたいか、どういう家族のあり方をするかは、世帯によって希望が違う。多様なあり方に対応できるように書きたい。こう変えてはどうかという文面を意見提出シートに書いていただきたい。

【委員長】 専業主婦世帯は幼稚園に子どもを通わせる方が多いことから、第六期長期計画で、保育園だけでなく、幼稚園に対する支援を書いた。さらに今は家庭が多様になって、子育て世代が一言では言えない状況にある。様々なところに対する拡充を考えたい。

【A委員】 ICTという言葉が、時の移ろいの中で今回はDXというはやり言葉に変わっている。対面も重要だが、テクノロジーを使うことで効率化できるし、効用も上がる。心強い言葉をいただいた。引き続き書き込んで計画に位置付ける。

【副委員長】 DXに関しては、第六期長期計画の策定で、ICTという言葉に至るところに書き込んだ。市の職員の方々はICTの推進ということを当時、必ずしも実感していなかったが、コロナ禍になり、今でいうDXの推進の重要性を理解してくださるようになった。ただ、ご指摘のとおり、市は対面を重視するという基本姿勢があるからか、武蔵野市のDXの推進とそのスキルは、はっきり言ってかなり遅れている。これからも市の行財政のみならず、各種サービスがDXの推進によって、より多様なコミュニケーションを図れるよう頑張る。

【委員長】 対面重視だと、今日、副委員長は欠席ということになるが、オンラインを使って出席できるというのが今の時代である。積極活用することが大事だ。

【市民H】 先日、コミセンの運営委員が集まらないことについての話し合いの場に出た。居住要件を緩和して、在勤・在学も含めようという提案に対し、居住地や職業について「自分たちとの区別」という言葉で差別的な意見を持つ人と対立した。私は人権侵害だと言ったが、何が間違っているのかご理解いただけなかった。人権侵害がコミュニティづくりやコミュニティ活動に及ぼす影響は大きい。人権擁護は当たり前のことなので書いていないのだと思うが、子どもの権利や多文化共生などと一緒に、平和・文化・市民生活の基本施策1と4に、コミュニティの担い手と人権について、もう少し書き込んでほしい。

【B委員】 言われてみれば確かに人権ということに触れる内容は少ないように思う。人権を基盤に据えてさらに読み直し、どう反映できるか考える。特に、多文化共生は私の専門の一つでもあるので、いろいろな角度から考えてみたい。

【委員長】 人権は基盤中の基盤なので書いていないという面もあるが、具体的に、居住地や職業の要件をコミュニティ内で合意のうえ認めるとするのは人権侵害の最たるものだ。どういう書き方ができるかは、かなり難しいが、考えたい。

【市民I】 前回、木の保全の方法から、木を切っただけではもったいない、学びにつなげようという意見を述べた。他市の社会教育主事から、生涯学習が市民活動につながり、コミュニティをつくり、市との協働になるという話を聞いた。まさに今、武蔵野市は自治基本条例をつくり、協働が生まれている。一方で、コミュニティが小さくなり、つながりが弱くなっている。学びをもっと広く捉えて、市民活動や協働をコミュニティのほうまで持っていけたらいいのではないか。今は社会教育士もいる。各分野にわたって横串どころではないコーディネートができる仕掛け人を、市で雇ったほうがいい。

【B委員】 学びは、読み書きそろばんだけではない。子どもが社会で生きるためのスキルを身につけるものになるといいと思いながらお話を伺っていた。

新しい専門職を配置することについては、私は全く否定するものではないと考えている。専門家の知見を活用できれば、より深い学びにつながる。一方で、予算が絡むことでもあり、現段階では置くというところまでは言えないが、意見を踏まえ、検討する。

【副委員長】 樹木をはじめとする緑の保全、緑と水のネットワークの推進は、一つのイ

ンフラとも言える。武蔵野市は余力があるのだから、環境の保全を、学びから社会教育、さらにはコミュニティの醸成の場にすべきだ。むしろ皆さんのすばらしい活動を市の職員が理解して、サポートする。個別の活動だけでなく、ほかの地域にも広がっていくように、市の職員たちもコミットしながら進めるという仕組みにすべきだ。

そういう場合、どのようなセクションをつくり、どのような職員を配置したらいいか。

【市民I】 武蔵野市は今、各課で市民に働きかけをしている。そこに仕掛けをするコーディネートのプロがいる。その方の力も使ったほうがいい。

【副委員長】 外部に業務委託という形で市がサポートするというだけでもいいのか。

【市民I】 それでもいいと思う。要は、各課でというより、プロの方が仲間に入ってコーディネートする。

【副委員長】 複数で連携してということか。

【市民I】 人数は問わない。各課で職員が努力しているが、専門的な力が入ったほうがいい。

【副委員長】 緑・環境コーディネーターという方がいて、市の職員と連携しながら、さらに地域の活動をされる方々と連携するというイメージでいいのか。

【市民I】 緑だけでなく、いろいろな地域課題、例えば脱炭素等の環境の話も、コーディネーターがあれば生かせるのではないか。

【副委員長】 社会教育からコミュニティの醸成までもつなげていける人材ということか。

【市民I】 そうしたことだ。

【委員長】 直接雇用できるかどうかについては検討する。例えば行財政分野の基本施策5の1)の第2段落、「副業と兼業の進展にともない専門的な知見、技術を有する市民を活用した人材確保」は、文脈としてはDXを意識しているが、コーディネーティング、つなぐことにも専門的な知見が重要である。全部を職員に任せるのは難しいというところも含め、問題提起等をしていきたい。

【市民D】 今、市の行政職員の中で社会教育主事の有資格者がいらっしゃる。自治体によっては、資格を取ってきてもらって、有資格者を配置している。新たに雇用するより、資格を持つ職員を活用する形で各部や課に配置していけば、いろいろな分野で市民とのコーディネートができる。

【市民J】 社会教育主事等の重要性が武蔵野市で意識されていないのではないか。学校には教師がいて、教育が成り立つ。大人の学校にも教師がいるが、社会教育の分野は、建

物をつくって部屋を置き、あとは皆さんでやってくださいとなっている。杉並区では、社会教育主事がコーディネートして市民活動を支えている。社会教育は、何も個人が学ぶだけではない。一緒に学び地域の課題に取り組む。ほかの団体とも組むし、市とも協働する。そうしたときに、望む方向が実現する。市民活動の望ましい形になる。学習が継続して広がり、深まるところを社会教育主事がサジェスションしてくれて、活動が継続し、発展する。ぜひ武蔵野市にも早急に社会教育主事を入れていただきたい。

【D委員】 社会教育主事は社会教育法第9条第2項によって市町村に置かなければいけないことになっているので、当然、武蔵野市にも配置されている。社会教育も教育委員会の大きな柱の1つだし、ご指摘のように社会教育の重要性は検討委員会としても認識しているところであり、市とも協議して、検討を進める。

【市民K】 市で仕組みをつくり、事例があり、事態が発生したら、このように対処するという話はよくわかるし、武蔵野市はその仕組みはできているにもかかわらず、僕は毎日、医療機関で困窮者と接している。困っている人たちは現実にいっぱいいる。僕は武蔵野市で困窮している方々のセンサーとして、そのフロントにいる。行政は基本的に申請主義で、言ってこないものには何もしない。しかし、本当に困っている人は申請もしない。誰がそれをつなぐのか。医師会、薬剤師会、歯科医師会という保険診療に携わる者は半分公的機関なので、指示、命令をされることに慣れている。そのセンサーを通して上がってくる情報に対して、市がどう対応するかという仕組みの内容を書いたほうがいいのではないか。

【D委員】 我が国では、24時間、365日の体制で困ったときの対応として、110番すると警察官が来てくれたり、健康保険に入っていようが入ってまいが、外国人を含めどういう方であろうが、救急車を呼べば病院に救急搬送してくれるシステムがある。これは実はすごいことで、しかも、その後の費用負担等の制度は後づけとなっている。ただ、もう少し自助的に、市民も健康とかに対してきちんとした意識や知識、情報を持つ。別のサポートもあるべきだということはご指摘のとおりだ。委員会に持ち帰り検討する。

【市民K】 日々聞くのは健康の話だけではない。例えば不眠を訴える人に話を聞くと、おばあちゃんがボケて徘徊している、子どもさんが不登校である、お金がないと言う。センサーである僕たちはいつもそういう方たちと接している。でも、僕たちは何もできない。僕はおせっかいだから、市に電話して、こんな人がいるという話ができるが、それをもう少し広い範囲、広い分野でシステム化した内容を盛り込んでほしい。

【D委員】　そういうご指摘を前回第六期長期計画策定時にもいただいて、相談機能を拡充し、市民が相談しやすいような機能を市に持たせようということを計画に盛り込んだ。しかし、センサーを通じて発せられる信号をきちんとキャッチできるようなアンテナ機能が充実していなければならないというのはご指摘のとおりだ。

【F委員】　病院でも、経済的に困難な方がいらっしゃる場合、病院が窓口となって自治体につないでいる。これからは独居高齢者や認知症高齢者が増える。コミュニティの力も大切である。市の総合相談窓口にはどのような形で相談したらいいかということを、市民の方たちがわかる形でお知らせする努力も必要だ。

【委員長】　私が最近専門にしているイギリスの社会的手法の事例でも、生活の様々な課題は本人の問題だけとは限らない。病気もあれば、社会的な環境もある。医師はあくまで本人に対する直接的な医療介入をするだけで、周辺事情には介入できない。でも、周辺事情のほうが大事だったら、そちらに対するものを考えていかなければいけない。そこへの介入が、生活相談、生活支援とか相談援助だが、それをどうつくっていくのか、決して単純な話ではない。また、申請主義だと、対象者が見えなくなる。見えないものに対するアウトリーチをどこまでできるか。やり過ぎると、ただの管理社会になる。難しい問題だが、重要性を踏まえて策定委員会で議論する。

【E委員】　指定管理者も、施設を管理しながら市民と行政の間に入っているセンサーである。市民文化会館をはじめとした施設をより活性化できるようなアイデアを持っていて、市民と直接対応しているので、市民の抱える悩みをどう解決したらいいかということをセンサーとして受けとめている。指定管理は市民文化会館だけでなく、スポーツ施設、文化施設にも入っている。

【市民E】　社会的に弱い人、外に出ることもままならない高齢者、外国人、子どもは相談する場所がないし、機会があってもなかなか相談に行けない。声を上げられない。「相談窓口がある」と言うだけでなく、直接声を聞く姿勢について、市民も行政の人たちも考えていただきたい。

【D委員】　例えば、昨今問題になっている児童相談所は、虐待の相談を受けても家庭に入れない。何か権限を持っているわけではないので、勝手にドアをあけられない。高齢者の問題も、民生委員はドアロックがあると入っていけない。訪問介護は、独居高齢者の家の鍵を預かって夜間に行けるのかというと、ひとり暮らしの家に他人が鍵をあけて入ると

刑法に触れる。アウトリーチの仕組みはあるが、制度が機能しづらい状況にあり、家庭の閉鎖性も強まっている。アプローチする側とそれを受けとめる側のバリアをどう取り除いていくか。そこを法的に進めようとする、人権の問題にも関わる。このような問題もはらんでいることを踏まえ、どのような対応を市としてできるのか議論する。

【B委員】 アウトリーチをどうするか、声を上げられない人たちにいかにコミットするのは大事である。ただ、それをより強めると、管理社会になってしまう。ご自身の状況が客観的に見てよくない状況だと捉えていない方たちは少なからずいらっしゃる。これは権利意識というところにリンケージしている。

生活保護などを受けられる状況にある人が実際に生活保護を受けているという捕捉率は、日本は約 18%、フランスは 91~92%、イギリスは約 60%、スウェーデンは約 70%、ドイツが約 60%だ。自分の権利に対する意識の醸成によって全部解決するわけではないが、教育は重要である。

【市民L】 玉川上水沿いの梶野橋から境橋の樹木伐採をしないでほしいと管轄の東京都水道局に要望したところ、当初切ると言っていた 27 本のうち、どうしても必要な 3 本のみ切って、24 本を残してくれた。樹木を守りたい。樹木を残すことに力を貸してほしい。

【委員長】 緑・環境を大事にして残していきたいという思いは同じだ。伐採が必要なものもあるが、残すことの必要性について声を上げる人がいるからこそ残るものもある。一緒に緑・環境を守っていければと思っている。

【市民I】 当人ではない人からの行政へのアクセスということでは、先般、団地内で、どうしたらいいかわからないことがあった。最終的には、議員さんにお話ししてつないでもらったが、第三者がどうしたらいいかわかるようになるとよい。

長期計画に子どもの意見はどう反映されるのか。今朝、子どもに、一緒に行かないかと声をかけたが、「行かない」と言う。理由を聞いたところ、「学校の授業の 50 分でさえ退屈なのに、2時間も嫌だ」と言っていた。ヒアリングの場の設定の参考にしてほしい。

【委員長】 つなぐ先がわからないときは、基本的に市役所のどこでもいいので言っただけであれば、所管につながる。ただ、つなぐことで、後から当事者に文句を言われるのではないかと躊躇するケースは多い。特に虐待の問題は、我々全員に通報義務があるが、通報することへの懸念の解消が課題となっている。相談先も今は市役所に総合相談窓口があ

るが、一步目のつなぐ勇氣は大事であり、いつもコミュニケーションがとれて、つなげられる体制、信頼関係をつくっておくことは重要だ。同時に、市役所も、どこが窓口かわかりやすいように常に広報を続けることが大事である。それにはどういう方法があるか、策定委員会で一緒に考えたい。

子どもの意見について、現段階では、まずワークショップをいくつか行い、5月に主に中高生世代を対象とした意見交換会を行う。詳細はまだ決めていないが、この会場のような対面方式ではない形だと思っている。また、未就学児に対してもまだ明確なアイデアがない。ぜひご意見をお寄せいただきたい。

【C委員】 私は、小学生よりも小さなお子さんのほうが地域に近いと思っている。散歩のときに、「こうなったらいいなということがある？」と聞く、あるいは社会科で地域を探検したり、インタビューに行ったりすることを学校の授業に取り入れてはどうか。公園の散歩に居合わせた小規模の保育所や園の先生方からご意見をいただくというのも一つである。保育園の先生や幼稚園の先生は子どもの声の代弁者である。

【市民J】 1ページの(1)「これまでのあゆみ」に、武蔵野市は市民自治を原則としていると書かれている。今日のこの会も、その一つだ。第1段落の「市民自治とは、市民が主体となって自らの住むまちを築き運営するという考え方である」は、これまでに出た社会教育の必要性とか、市民活動が学びから育っていくこと、つながり、市政とも協力してということを行っている。「市民自治」は、飾っておくものではなく、どう実行するかだ。市民自治が、ただあるというのではなく、その市民自治を支えるような仕組みをぜひつくっていただきたい。

社会教育主事についても、資格を持つ人がそこにいればいいということではない。配置された社会教育主事が十分に力を発揮できるような環境をつくっていただきたい。

【委員長】 市民自治は理念である。これが終わることは絶対ない。そのために、社会教育を進め、市民自身も学びながら成長し、職員と協働する。その仕組みはとても大事である。社会教育は市民自治の根幹とも言える部分だ。非常に大きい話なので、どういう書き方ができるか、理念を共有しながら委員会で考える。

【B委員】 私はいろいろな自治体の計画等々に携わらせていただいているが、委員会と市民の皆様と対話しながら武蔵野市のあり方を考える武蔵野市方式は初めての体験で、いろいろ勉強させていただいている。ただ、私は武蔵野市民として5年ちょっとしか住んで

いないが、武蔵野市方式というものを全然知らなかった。市民参加で武蔵野市をつくっていくというこの方式をより多くの方に広く知っていただくこと、より参加していただくことが重要だ。その広報のあり方を考えていきたい。

【市民G】 私がここで子育てをしたいと思った理由は、環境とか利便性のよさだ。それが武蔵野市のよさでもある。市民自治ということは、頭にはこれっぽっちもなかった。市政に対して興味を持つようになったのも、本当につい最近の話だ。ただ、今はPTAの役員一人を決めるのも大変なご時世だ。市民自治だから参加しなさいと言われると、プレッシャーを感じる方もおられるという意識を持ったほうがよい。もちろん大事なことだが、そういうことに興味がない人たちも、それはそれでよしとしないと、負担になる。

【市民M】 武蔵野市との協働というと、日赤奉仕団とか地域社協といった団体が位置付けられているが、今も現役で活動する古い世代の人たちの知見が生かされていない。地域についての深い知識とか経験がうまく伝わらない。市役所の担当の方は異動になるので、そこでできたネットワークも結局消えてしまう。そういうことを包括的に立て直すことが武蔵野市のコミュニティ再生に関わるが、この討議要綱にはコミュニティ再生の問題が一つもない。

自治基本条例第4条の冒頭には「市民は、自らが自治の主体であり、かつ、民主主義の担い手であることを自覚して」とある。今日も市民自治という言葉がたくさん出てきたが、残念ながら、長期計画にも今回の討議要綱にも「民主主義の担い手」という言葉すらないし、「民主主義」という言葉もない。なぜか。

武蔵境はPPPの取組みが行われて、その後、ガイドラインをつくるということになっている。実際にガイドラインを機能させるということをやっているであろうが、モニタリングの成果はあるのか。

【市民D】 先ほどから学びということが出ている。学ぶことと市民活動の循環のような話もしたが、生活保護の捕捉率の低さも、学び、教育とかなり関係する。積極的に地域をつくっていくという意味での学びもあれば、市民としての権利を守るための学びもある。長期計画に基づいた市政の推進には、子どもたちの学校教育も含め市民の方々の学びがきちんと担保されるような書き込みが必要ではないか。例えば、「基本的な考え方」の4ページは、もう決まったことで変えられないかもしれないが、5ページから6ページにかけ

での基本目標の中の一つに入れる、あるいは（４）をもう少し広げる、もしくは6ページ、7ページの基本課題の最後にもう一つ加えてはどうか。いずれにしても、市民生活の向上、そして地域をつくること、コミュニティ再生を含めて地域をよくすることと、学びは関係する。これを武蔵野市として宣言していただきたい。学びをキーワードにして長期計画をつくっている自治体は、社会教育も学校教育も重要視している。学びを長期計画でしっかりと位置付けていただきたい。

社会教育主事は、制度上、教育委員会にしか置けないので、文科省が、社会教育主事を持っていけば社会教育士という称号を与えて、一般行政でも民間企業でも、どこでも名乗ることができるようにした。社会教育士の資格を職員の多くが取って、各部課で市民と行政とをつなぎ、行政と市民とで一緒に地域づくりをする、そんな体制ができるといいと思っている。

【市民N】 28 ページ、29 ページにある「災害への備えの拡充」が、長期計画にはそぐわない。30 年以内に、70%以上の確率で首都直下地震の発生が予想されているが、いつ起こるか分からないことにどこまでできるかというのは大変難しい問題だ。長期計画の中に入れるべきものなのか。また、これとは別に、こういう緊急時の対策について計画があるのか。

【市民B】 この建物の中にある国際交流協会を1階におろして、見える化したほうがいい。ここにあることをほとんどの人が知らない。武蔵境周辺には外国籍の人が多いうちがたくさんあって、外国人も境地域にはかなり居住している。多文化共生推進プランもつくられるので、国際交流というビジョンを掲げるまにできないか。

仙川が境南町を走っているが、幅3メートルぐらいで、ただの溝だ。そこに蓋をして遊歩道をつくったら、とてもいい緑・環境になるのではないか。

ムーバスはもともと福祉目的でつくられたとのことだが、その考え方を少し変えて、市民生活を豊かにするための路線とすることを検討できないか。境地域から市役所は遠い。吉祥寺地区からも遠いという声がある。そこを回るようなムーブスの路線をつくれば、市役所へのアクセスがしやすくなる。

武蔵野市は平和の取組みに熱心だが、日本は核兵器禁止条約に批准しないし、オブザーバー参加もしない。武蔵野市は、長崎市と手を組んで、平和の取組みを積極的に引っ張っ

ていくという立ち位置をとっていいのではないか。かつてICUの学生たちがイスラエル・パレスチナ学生会議をつくって、イスラエルの人とパレスチナの対話の場をつくり、それを武蔵野市が支援した。記念の植樹も残っている。ウクライナの戦争でもそのような取り組みができるのではないか。

子どもの権利条例をつくるプロセスでは、権利条例をつくる委員会の委員が、子どもが常々集る場所に出かけていき、話を聞かせてもらっている。策定委員会の皆さんも、そろって話を聞くのではなくて、委員会の中のお一人とかお二人が出向いて話を聞かせてもらうというのはどうか。

【B委員】 自治とか市政参加に関する広報について、「こういう場があるから、あなたも出なさい」というプレッシャーをかけるような周知をするということではない。私の場合は、自身の勉強不足と情報収集不足で、意見を言える場があることを知らなかった。どこにも意見を上げられないという市ではないので、どうせ自分の声なんかと思わずご意見を周知することが必要だ。

古い世代の方たちの知見が生かされていないのは、本当におっしゃるとおりである。昔から蓄積されてきた知見に耳を傾け、これからどう生かしていけるのか、それをどう仕組みに取り入れていけるかについて検討する。

【市民M】 様々なコミュニティ、多様なコミュニティと書かれているが、そこをどうつなげたらいいのかというのは難しい問題だ。コミュニティセンターなどがハードの役割をすれば、大分違ってくると思うが、うまく機能していない。

【委員長】 「民主主義の担い手」という重要なキーワードが入っていないというのはおっしゃるとおりである。どこにどういう形で反映させることがより本質的にいいことなのか考えたい。

【市民M】 議会の方々との意見交換の中で、住民投票について、住基云々の話があった。基本的には住民投票条例は一つの民主主義の仕組みだ。代表制民主主義を補完する仕組みとして自治基本条例の中に位置付けられているので、これは絶対に実現しなければならない。そういう意味合いで熟議とか熟慮ということが討議要綱の中に書かれていると思う。ただ、熟慮する主体ははっきりしているが、市民を巻き込んだ熟議はどうするのか。デリバティブな話をするなら、書き方をもうちょっと工夫してほしい。

【委員長】 民主主義は決して一つの回路ではない。多様な回路があって成立し得るもの

であり、武蔵野市のコミュニティ構想にも、地域における小さな民主主義の担い手をどう育成し、その中で地域の民主主義をどうつくっていくのかという理念が入っている。さらに、自治基本条例のような比較的上層のところでも、民主主義の多様性のようなものがある。住民投票条例はあくまでその一手段に過ぎない。また、熟議も民主主義の方法だ。それをどう進めるのか。一つの答えがあるわけではないので、アイデアをいただきながら考える。

【A委員】 公民連携、PPPについて、委員会で議論しているわけではないので、一委員の個人的な見解だが、武蔵野市は、世間からすると相当後退している状態にある。最大の理由は、行財政が非常に豊かであるために、PPPを促進させるまでもないという考え方があったのではないかと。PPPは、財政が逼迫しているところが財政効率を上げるためにとる手段だ。日本は局所的に行われてきたと思うが、一方で、横浜市のように、自分たちのまちは民間活力を活用するんだということで、PPPができるはるか前からあれだけのまちをつくり、あれだけの経済をつくり上げて成功をおさめた都市もある。翻って武蔵野市は、今回も指定管理という言葉が結構出ているが、指定管理は一番初歩的な、一番工夫の余地のない公民連携だ。PPPは本来、民間からいろいろアイデアが出てきて、それに行政が規制緩和を含めて進めていくというバラエティーのあるものだ。武蔵野市においては、初期の段階でトラブルを抱えたためか、ブレーキが踏まれた状態だ。令和3年に、国から、いわゆる指針を示してくださいという指導が入ったが、武蔵野市のガイドラインは時代的に対応できないということもあって、令和5年度以降に大幅に見直す。境あるいは今あまりうまくいっていない吉祥寺東町一丁目で行われているものをどうするか、見直すいい機会になるのではないかと。

今回の調整計画では、実はPPP、公民連携という言葉をもっと書き込んだ。今、一般的な指定管理からさらに踏み込んで、日本各地で公民連携に関する研究が進められている。その成果も出ている。それを武蔵野市に導入するには、市民の皆さんにご協力いただかないといけないこともたくさんある。そういうものを今回の調整計画で検討する。調整計画は大きなビジョンなので、個別に関してはガイドラインの改定作業のほうで議論するというフレームワークを用意した。

【B委員】 市民の学びを担保されることについて、もうちょっと触れる必要があるのではないかとのご意見をいただいた。社会教育主事のことや市民の学びということについ

て、今日は非常に勉強させていただいた。必要性も強く感じた。

これはあくまでも一委員の意見だが、市民が学ぶ機会の確保とか担保ということが書かれているが、学びを基礎とし、学びを市民生活とか市民活動に生かしていくことができるような仕掛けについて、何か触れられたらいいなと思っていた。長期計画で学びを基軸に展開している自治体のことについても勉強したいと思った。

国際交流協会については、多文化共生推進プランの策定の中でも、窓口が1階にないのがよくないのではないかというご意見をいただいている。今後、多文化共生社会を推進するのであれば、窓口のアクセシビリティを高めることが必要だ。また、より多くの方に知っていただくために、その窓口をよりわかりやすいところに置くということも重要なことである。多文化共生社会を構築するにはどうすればいいか、委員会で検討する。

【E委員】 仙川については、調べてから考える。ここでは保留にさせてほしい。

ムーバスは、福祉的なことから始まった日本のコミュニティバスの先駆である。実は私は、孫ができてから武蔵野市内の観光も兼ねて初めて乗ったが、買い物や通院以外の意図、市の空間が新しい視点で見えた。今の路線は限定的だが、発展性がある。レモンキャブや営業的なバスが行けないところのカバーは重要なので、福祉だけでなく、多目的に使えるといいと思う。持ち帰って検討する。

【委員長】 境と市役所の路線は、以前検討されていたのではないか。

【G委員】 境から市役所まで路線バスを引いたことがあるが、乗客が少なく、民間では営業上の問題が生じるとして廃線になった。

ムーバスはもともと交通空白地域をカバーするもので、国交省による制限もあり、できるだけ路線バスと競合しない形で運行してきた。時代に即した形での路線のあり方について、引き続き検討する。

【委員長】 規制絡みのことがあるが、ニーズも変わってきている。委員会で検討する。

【委員長】 防災といういつ来るかわからないものを長期計画という10年の計画に書くのはそぐうのかということについては、大前提として、目の前の災害対応そのものというより、その準備を書いている。何か起きる前にしっかり準備をしておかないと、何か起きたときの対応などできるわけがないからだ。そのために今できること、例えば耐震化や訓練など防災の準備を進める。また、災害が起きたときの減災の取組みについても書い

ている。本当に災害が起きたとき、経験にこそ意味がある。

災害対応については、防災の計画がある。大きなところでは国民保護計画等もある。また、当然ながら都市計画にも関わる。学校教育、介護等、あらゆるところで災害に対する備えが具体的に規定されている。平常時だからこそできることをする。そういう積み重ねがあってこそ、いつ来るかわからない災害に対応できるという形をとっている。

子どもの意見を、我々が出かけていって聞くというのは、とてもおもしろいアイデアだ。この長期計画はかなりタイトなスケジュールで、我々がどこまで行けるかという問題もあるが、子どもの権利条例をつくるときに既に実施しており、アンケートもある。子どもの負担、学校の負担も考慮して、彼ら、彼女らが一番話しやすいところで話してもらうことが大事だ。我々のいるところに来てもらうというのは、相手にとってはアウェーだということを意識して、前向きに検討する。

【B委員】 平和活動で、何ができるかできないかは、過去の取組みや現在の活動についての情報収集から始めたい。

【委員長】 以上で、意見交換会を終了する。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法と、3月10日に開催されるオンラインによる意見交換会及び大雪警報発令により中止となった吉祥寺地区での圏域別意見交換会を3月17日に開催することについて説明し、境地区の圏域別意見交換会を閉じた。

以 上